

開催主旨

近年、食品および食品成分の保健機能に関する研究が進み、食を通じた健康維持・増進に大きな期待がよせられています。食品の機能性に関しては様々な意見がある中、現在、消費者庁では特定保健用食品制度及び栄養機能食品制度を維持しつつ、企業等の責任において科学的根拠をもとに機能性を表示できる新たな方策を検討中です。

新たな制度を消費者が正しく利用していくためには、対象となる食品について安全性と有効性を企業等が科学的に実証できること、消費者が誤認なく判断できることに加え、既存の規制や制度との関係、いわゆる健康食品との違いなども明確にできることが期待されます。

また、対象となる食品の生産・製造および品質管理、原材料の品質確保においては、届出企業のみならず原材料および添加物メーカーにおいても派生する取組みが必要となることも考えられます。

そこで今回、第30回食品化学シンポジウムとして、食品の機能性に関わる安全性・有効性の研究・試験機関、業界および消費者サイドの専門家の先生方にご講演頂くこととなりました。本学会およびこの方策にかかわる関係者が、食の安全および国民の健康維持・増進に寄与する為、今後どのように対応するべきかを考えて行きたいと思っております。

テーマ：食品の新たな機能性表示制度をめぐって

13:00-13:05 開会挨拶

13:05-13:55 「新しい機能性表示と健康食品の品質」

国立医薬品食品衛生研究所 薬品部長 合田幸広

13:55-14:35 「健康食品の安全性確保に向けた課題と業界の取組み」

公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 健康食品部長 今田 修

(休憩 14:35~14:50)

14:50-15:30 「機能性食品の臨床試験事例について」

大阪市立大学医学部附属病院 医薬品・食品効能評価センター コーディネーター 藤井比佐子

15:30-16:20 「消費者が機能性表示に寄せる期待と問題点について」

一般社団法人 FOOD COMMUNICATION COMPASS 森田満樹

16:30-17:00 意見交換会（総合討論）

■ 主催：日本食品化学学会

■ 日時：2014年10月20日（月）13:00-17:00

■ 会場：薬業年金会館 3階（大阪市中央区谷町6丁目5番4号） 定員150名

■ 実行委員長：富永 俊義〔（独）医薬品医療機器総合機構 上席審議役（国際担当）、
大阪市立大学医学部附属病院 医薬品・食品効能評価センター 前センター長〕

■ 参加費：会員（個人・法人）3,000円、非会員6,000円（事前申込み10月16日まで締切延長）

■ 参加申込：学会HPより申込下さい（定員150名）、当日参加も定員内で受付します。

■ 問合せ先：食品化学シンポジウム事務局 e-mail: shokuhinkagaku@jsfcs.org

〒561-8588 大阪府豊中市三和町1-1-11 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社内

担当：森本・楠田 TEL:06-6333-0521 FAX:06-6333-3437